

6.11 陸上植物

6.11 陸上植物

6.11.1 調査結果の概要

1) 調査項目

陸上植物の調査項目は以下のとおりである。

- ・植物相(種子植物、シダ植物の種類、分布状況)
- ・植生(現存植生の種類、種構成、構造及び分布状況)
- ・保全すべき植物種、植物群落の生育状況(保全すべき植物種、植物群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況)

2) 調査地域及び地点

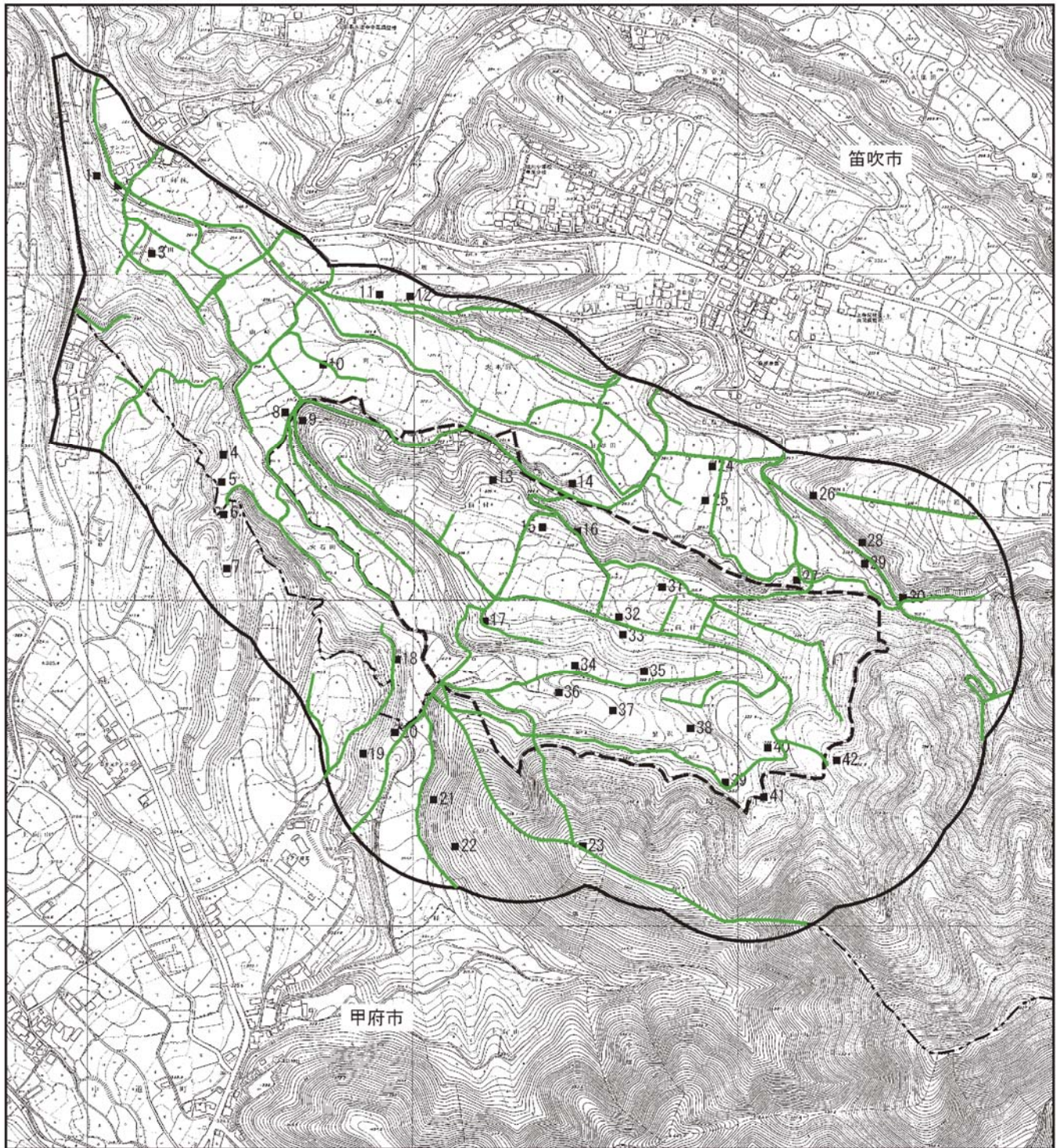
調査地域は、対象事業実施区域及びその周辺 200m の範囲を基本とし、地形や集水域を考慮した範囲を設定した。

調査地点は対象事業実施区域及びその周辺 200mの範囲を基本とし、対象事業実施区域及びその周辺の植物種の生育環境(耕作地、樹林地等)を勘案し、基本踏査経路を設定した。

調査地点を表 6-11-1 及び図 6-11-1 に示す。

表 6-11-1 陸上植物の調査地点

項目	調査手法	調査地点
植物相	任意踏査	対象事業実施区域及びその周辺の植物の生育環境(耕作地、樹林地等)を勘案し、図 6-11-1 に示す基本踏査経路を基に任意踏査を実施した。
植生	コドラート調査	植生調査の調査地点は、調査範囲に分布する全ての群落に対して、図 6-11-1 に示すコドラート 42 地点で実施した。



注1) 平成16年10月12日、平成18年8月1日に旧石和町、旧御坂町、旧一宮町、旧八代町、旧境川村、旧春日居町、旧芦川村が合併し笛吹市となっている。
 注2) 平成18年3月1日に旧甲府市、旧中道町、旧上九一色村の一部が合併し甲府市となっている。

凡 例	
	対象事業実施区域
	行政界
	調査範囲
	基本踏査経路
	群落調査地点

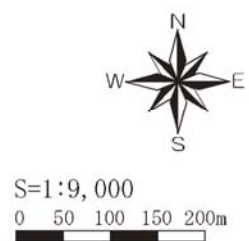


図6-11-1 陸上植物の調査範囲及び調査地点

3) 調査方法

植物相及び植生調査の方法を表 6-11-2 に示す。

表 6-11-2 植物相の調査方法

項目	調査手法	調査内容
植物相	任意踏査	<ul style="list-style-type: none"> 現地踏査により、シダ植物以上の高等植物を目視観察し、出現種を記録した。現地において同定が困難な種については、標本を持ち帰り、室内にて同定を行った。 保全すべき植物種については、植物相において、「文化財保護法」、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の法令、及び「環境省レッドリスト」（環境省、2007年）、「2005 山梨県レッドデータブックー山梨県の絶滅のおそれのある野生生物ー」（山梨県、2005年）の文献に基づき、保全すべき植物種を選定し、生育位置及び生育状況等を記録した。保全すべき植物種の選定基準を表 6-11-9 に示す。
	マツバラ追加調査（※）	<ul style="list-style-type: none"> 平成 19～20 年に確認された場所において、マツバラの株数、生育状態の確認調査を行った。
植生	コドラート調査	<ul style="list-style-type: none"> 植生については、植物社会学的植生調査法(Braun-Blanquet 1964)によるものとし、現地踏査により植物群落を目視観察し、記録する。群落区分はテーブル処理法(Mueller-Dombois and Ellenberg 1974)により行った。 現存植生図は現地にて植物群落の優占種の相観をもとに地形図に描いた。室内作業にて、現地で描いた原図に、植生調査から得られた群落調査の結果により整理し作成した。 植生自然度は、「環境庁自然保護（編）：第 4 回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書（全国版），1997 年」の区分基準に従って判断した。 保全すべき植物群落については、植生調査において植生自然度 10 及び 9(自然植生)、国、県、市町村の天然記念物に指定されている植物群落、「特定植物群落選定基準」(環境庁, 1983 年)にあてはまる植物群落に基づき、保全すべき植物群落を選定し、生育位置及び生育状況を記録した。

※：マツバラ追加調査方法、調査項目については、大久保栄治氏（山梨学院短期大学教授）の指導を受けて設定した。

4) 調査期間及び頻度

調査期日を表 6-11-3 に示す。

表 6-11-3 陸上植物調査期日

項目	調査手法	調査期日
植物相	任意踏査	平成 19 年 10 月 4 日～6 日（秋季） 平成 20 年 3 月 27 日～29 日（早春季） 平成 20 年 5 月 22 日～24 日（春季）※進入路範囲含む 平成 20 年 7 月 20 日～22 日（夏季）※進入路範囲含む 平成 20 年 10 月 20 日（秋季）※進入路範囲のみ 平成 21 年 3 月 25 日（早春季）※進入路範囲のみ
	マツバラ追加調査	平成 22 年 6 月 15 日、7 月 13 日、8 月 17 日、9 月 13 日 10 月 22 日、11 月 19 日 平成 23 年 2 月 9 日
植生	植生図作成調査 植物群落組成調査	平成 20 年 8 月 11 日～14 日（夏季）

5) 調査結果

(1) 植物相

植物相調査の結果、確認された植物は113科369属627種であった。このうち対象事業実施区域内からは512種が確認され、対象事業実施区域外からは549種が確認された。

分類群別の確認種数を表6-11-4、分類群別確認種数の割合を図6-11-2に示す。

調査範囲内の平坦部の多くは果樹園や畑地、水田等として利用されており、このような耕作地周辺にはメヒシバやスベリヒユ、ハキダメギクのような畑地雑草やコナギやイボクサ、アゼナのような水田雑草が多くみられた。また、調査範囲内の斜面地の多くはクヌギーコナラ群落等の樹林環境となっており、ここではクヌギやコナラ、カスミザクラといった木本類や、アズマネザサ、ヤマカシユウ、タチドコロ、コウヤボウキといった草本類が多くみられた。

表 6-11-4 植物の分類群別確認種数

分類群				科	属	種	種の比率(%)	対象事業実施区域	
								内	外
シダ植物				14	26	50	8.0	39	41
種子植物	裸子植物			3	6	7	1.1	5	6
	被子植物	双子葉類	離弁花類	55	155	265	42.3	222	237
			合弁花類	25	95	150	23.9	120	134
	単子葉類			16	87	155	24.7	126	131
合計				113	369	627	100.0	512	549

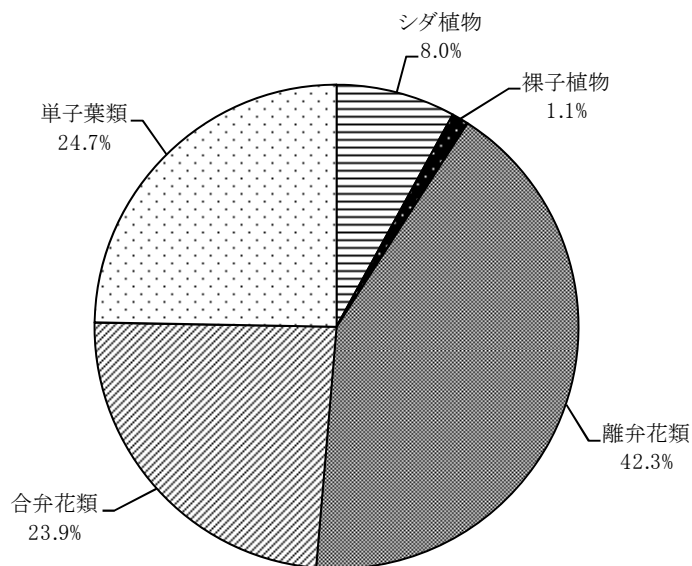


図 6-11-2 植物の分類群別確認種数の割合

(2) 植生

① 植生分布

植生調査の結果、表 6-11-5 に示すとおり、木本群落 17 単位、草本群落 25 単位、その他、果樹園や水田などの土地利用タイプ等が 8 単位の合計 50 単位が確認された。現存植生図を図 6-11-3 に示す。

対象事業実施区域内の植生は、東側にマダケ林が、南側にクヌギーコナラ群落はややまとまって分布しており、中央部から西側にかけては果樹園や畑地等として利用されている。また、南側には谷戸が入り込んでおり、西側は水田等として利用されているほか、東側にはオギ群落やタチヤナギ群落等の湿生植物群落が多くみとめられる。

対象事業実施区域外は、東側から南側にかけてクヌギーコナラ群落やコナラ・アカマツ群落等の樹林域がまとまって分布しており、北側から北西側にかけての間門川沿いには水田として利用されている場所が多くなっている。また、西側の斜面地はマダケ林やクヌギーコナラ群落はややまとまって分布しているほか、果樹園や畑地として利用されているところも多い。

表 6-11-5 植生図凡例

分類	凡例	群落名等
木本群落	1	タチヤナギ群落
	2	エノキ群落
	3	クヌギーコナラ群落
	4	クヌギーコナラ群落 (若齢林)
	5	コナラ・アカマツ群落
	6	コナラ・シラカシ群落
	7	アカマツ群落
	8	アカマツ群落 (若齢林)
	9	シラカシ群落
	10	オニグルミ群落
	11	マグワ・ヤママグワ群落
	12	ヌルデ群落
	13	マダケ林
	14	ハリエンジュ群落
	15	シンジュ群落
	16	スギ・ヒノキ植林
	17	スギ・ヒノキ植林 (若齢林)
草本群落	18	ヨシ群落
	19	ツルヨシ群落
	20	オギ群落
	21	ガマ群落
	22	ミゾソバ群落
	23	アズマネザサ群落
	24	ススキ群落
	25	チガヤ群落
	26	コマツナギ群落
	27	メドハギ群落
	28	クズ群落
	29	カナムグラ群落
	30	イタチハギ群落
	31	チゴザサ群落
	32	クサネム群落
	33	ドクダミ群落

分類	凡例	群落名等	
草本群落	34	メヒシバーエノコログサ群落	
	35	ヤブマメ群落	
	36	セイタカアワダチソウ群落	
	37	ヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群落	
	38	オオブタクサ群落	
	39	コセンダングサ群落	
	40	メマツヨイグサ群落	
	41	コスカグサ群落	
	42	畑地雑草群落	
	土地利用等	43	果樹園
		44	水田
		45	畑地
46		植栽地	
47		建蔽地	
48		道路・駐車場等	
49		人工裸地	
50		開放水面	

凡例	群 衆 名 等
1	タチバナギ群落
2	クヌギ群落
3	クスノキコナラ群落
4	クスノキコナラ群落(程節林)
5	コナラアカマツ群落
6	コナラシラカシ群落
7	アカマツ群落(若齢林)
8	アカマツ群落(若齢林)
9	シラカシ群落
10	オニグルミ群落
11	マツウレヤマグルミ群落
12	ヌル子群落
13	マダケ林
14	ハルエンシユ群落
15	シシユ群落
16	スギ・ヒノキ植林
17	スギ・ヒノキ植林(若齢林)
18	ミシ群落
19	ツルヨシ群落
20	オギ群落
21	カマ群落
22	ミソハ群落
23	アズマネザサ群落
24	ススキ群落
25	チガヤ群落
26	コマツナギ群落
27	トハハ群落
28	ウス群落
29	カナムグラ群落
30	イタチハギ群落
31	チコスサ群落
32	クサネム群落
33	トクサネム群落
34	トクサネム群落
35	ヤブマツ群落
36	セイカタワタチソウ群落
37	ヒメムシヨモギ・オオアレチノギ群落
38	オオアレチノギ群落
39	ヤブタバコ群落
40	アヲカサ群落
41	アヲカサ群落
42	地味草群落
43	米田
44	水田
45	雑草地
46	雑草地
47	雑草地
48	道路・駐車場・コンクリート積造物等
49	人工裸地
50	開放水面

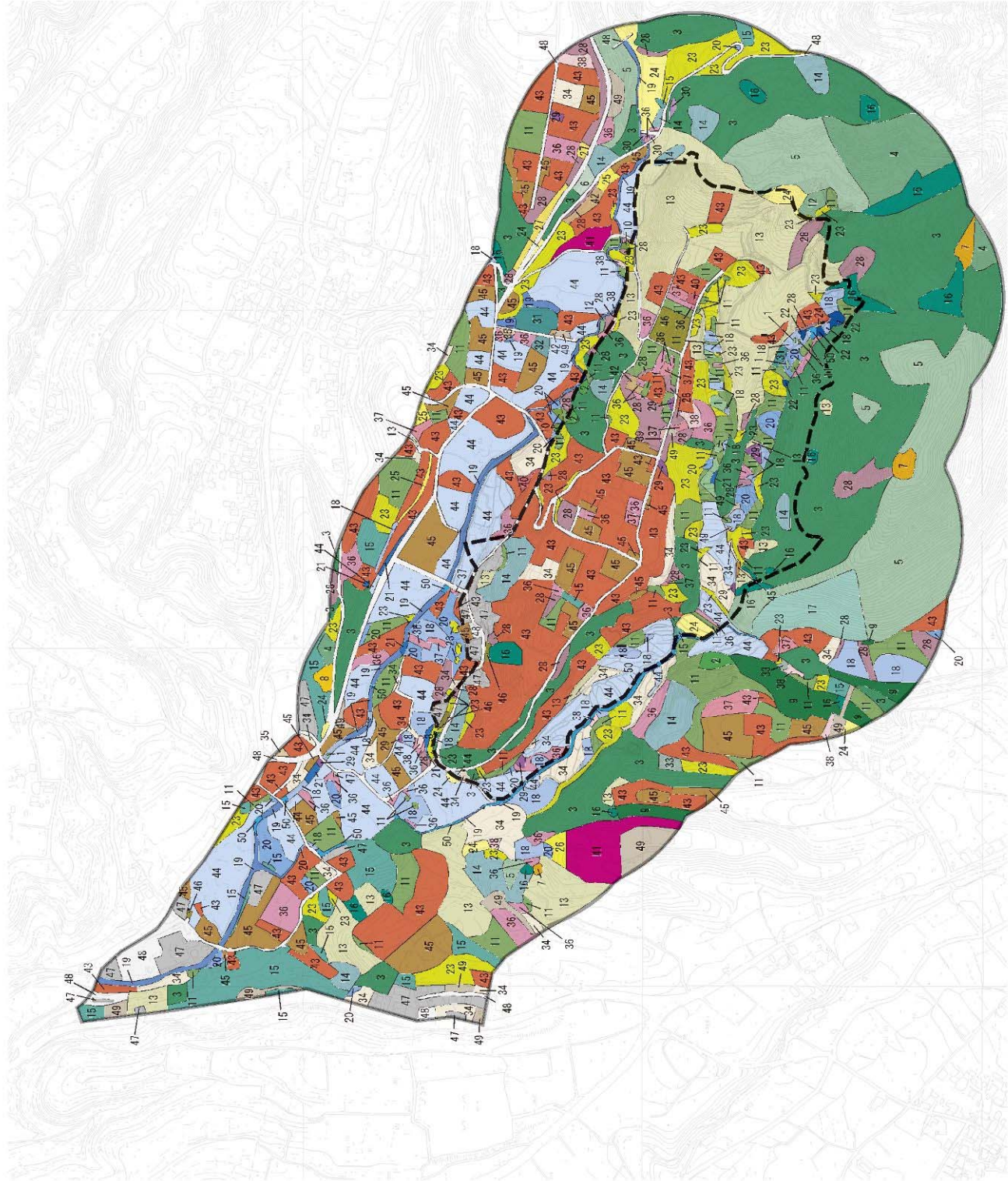
○ : 調査範囲

□ : 対象事業実施区域

図6-11-3 現存植生図



S=1:6,000



② 植生自然度

植生調査の結果を基に、確認された群落等について、植生自然度をまとめた。なお、植生自然度をまとめるに当たっては、「環境庁自然保護局（編）：第4回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書（全国版）、1997年」の区分基準に従った。

植生自然度は表6-11-6(1)～(2)に示すとおり、自然度がやや高い8（二次林で自然林に近いもの）から、最も自然度が低い1（市街地、造成地等）まで確認された。現存植生図を基に作成した植生自然度図を図6-11-4に示す。

植生自然度の分布を見てみると、対象事業実施区域を含む調査範囲内の中央部から北側にかけて、自然度2～3のエリアが大部分を占めている。また、調査範囲の東側から南側にかけては自然度7のエリアがまとまって分布している。

表6-11-6(1) 植生自然度区分基準

植生自然度	区分内容	凡例	群落名等
8	二次林（自然林に近いもの）	1	タチヤナギ群落
7	二次林	2	エノキ群落
		3	クヌギ・コナラ群落
		4	クヌギ・コナラ群落（若齢林）
		5	コナラ・アカマツ群落
		6	コナラ・シラカシ群落
		7	アカマツ群落
		8	アカマツ群落（若齢林）
		9	シラカシ群落
		10	オニグルミ群落
		11	マグワ・ヤマグワ群落
		12	ヌルデ群落
		13	マダケ林
		14	ハリエンジュ群落
		15	シンジュ群落
		6	植林地
17	スギ・ヒノキ植林（若齢林）		
5	二次草原（背の高い草原）	18	ヨシ群落
		19	ツルヨシ群落
		20	オギ群落
		21	ガマ群落
		22	ミゾソバ群落
		23	アズマネザサ群落
		24	ススキ群落
		25	チガヤ群落
		26	コマツナギ群落
		27	メドハギ群落
4	二次草原（背の低い草原）	28	クズ群落
		29	カナムグラ群落
		31	チゴザサ群落
		32	クサネム群落
3	農耕地（樹園地）	33	ドクダミ群落
		43	果樹園

表 6-11-6(2) 植生自然度区分基準

植生自然度	区分内容	凡例	群落名等
2	農耕地（水田・畑） 緑の多い住宅地	34	メヒシバーエノコログサ群落
		35	ヤブマメ群落
		30	イタチハギ群落
		36	セイタカアワダチソウ群落
		37	ヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群落
		38	オオブタクサ群落
		39	コセンダングサ群落
		40	メマツヨイグサ群落
		41	コヌカグサ群落
		42	畑地雑草群落
		44	水田
		45	畑地
		46	植栽地
1	市街地、造成地等	47	建蔽地
		48	道路・駐車場等
		49	人工裸地
—	その他	50	開放水面

凡例

- ⑧ : 二次林(自然林に近いもの)
- ⑦ : 二次林
- ⑥ : 植林地
- ⑤ : 二次林(背の高い草原)
- ④ : 二次林(背の低い草原)
- ③ : 農耕地(樹園地)
- ② : 農耕地(水田・畑)
緑の多い住宅地
- ① : 市街地、造成地等
- : 開放水面

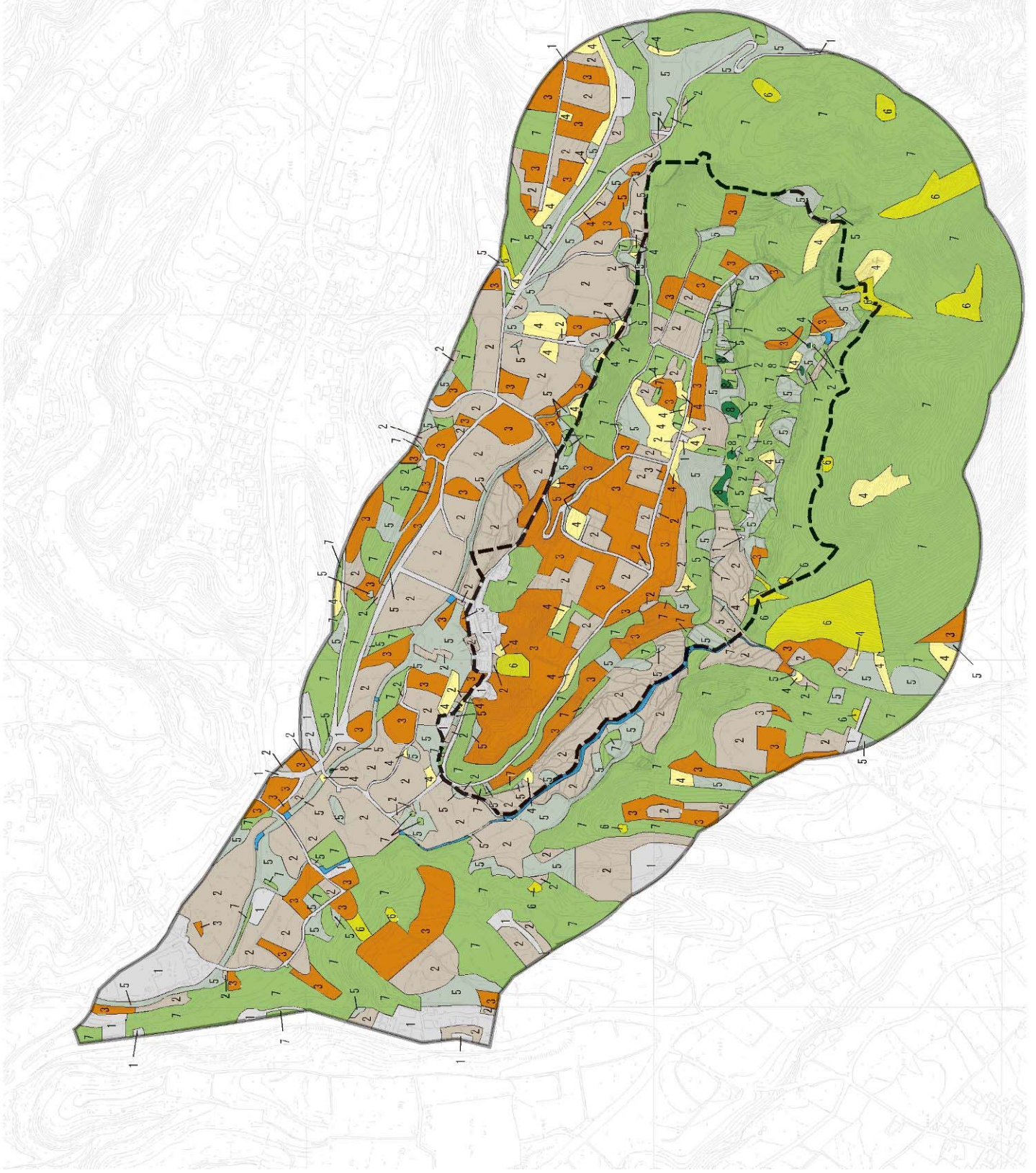
○ : 調査範囲

□ : 対象事業実施区域

図6-11-4 植生自然度図



S=1:8,000



③ 植物群落

調査範囲内において確認された植物群落について、植物群落調査を実施した。調査は以下の表 6-11-7 のとおり、42 地点（図 6-11-1 参照）で実施した。

表 6-11-7 植物群落調査地点の概要

地点番号	群落名	群落高	調査面積
1	シンジュ群落	10.0m	10m×10m
2	ツルヨシ群落	2.0m	2m×2m
3	セイタカアワダチソウ群落	1.5m	2m×2m
4	オオブタクサ群落	2.5m	3m×3m
5	ヨシ群落	3.0m	3m×3m
6	コマツナギ群落	2.5m	3m×3m
7	コヌカグサ群落	0.6m	2m×2m
8	ススキ群落	1.2m	2m×2m
9	クヌギーコナラ群落	16.0m	10m×10m
10	カナムグラ群落	0.3m	2m×2m
11	アカマツ群落（若齢林）	8.0m	10m×10m
12	クヌギーコナラ群落（若齢林）	8.0m	10m×10m
13	ハリエンジュ群落	16.0m	10m×10m
14	メマツヨイグサ群落	2.0m	2m×2m
15	クズ群落	1.0m	2m×2m
16	アズマネザサ群落	2.0m	3m×3m
17	メヒシバーエノコログサ群落	0.8m	2m×2m
18	エノキ群落	15.0m	10m×10m
19	シラカシ群落	18.0m	10m×10m
20	ドクダミ群落	0.5m	2m×2m
21	スギ・ヒノキ植林（若齢林）	7.0m	10m×10m
22	コナラ・アカマツ群落	16.0m	10m×10m
23	アカマツ群落	18.0m	10m×10m
24	ヤブマメ群落	1.0m	2m×2m
25	クサネム群落	1.2m	2m×2m
26	メドハギ群落	1.2m	2m×2m
27	オニグルミ群落	10.0m	10m×10m
28	コナラ・シラカシ群落	15.0m	10m×10m
29	チガヤ群落	0.3m	2m×2m
30	イタチハギ群落	2.5m	3m×3m
31	畑地雑草群落	0.2m	2m×2m
32	コセンダングサ群落	0.3m	2m×2m
33	ヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群落	1.2m	2m×2m
34	ガマ群落	3.0m	2m×2m
35	タチヤナギ群落	6.0m	5m×5m
36	オギ群落	2.5m	2m×2m
37	マグワ・ヤマグワ群落	6.0m	5m×5m
38	チゴザサ群落	0.5m	2m×2m
39	ミゾソバ群落	0.4m	2m×2m
40	マダケ林	8.0m	10m×10m
41	スギ・ヒノキ植林	20.0m	10m×10m
42	ヌルデ群落	3.0m	5m×5m

各群落の概要は以下のとおりである。

ア 木本群落

木本群落は全部で 17 単位が確認された。確認された主な木本群落の概況について以下に述べる。

ア) タチヤナギ群落（調査地点番号：35）

本群落は湿った立地に成立する落葉広葉樹の低木林である。階層構造は 2 層に分かれており、低木層にはタチヤナギが優占し、植被率は 70%と樹冠はやや空いている。

草本層には湿生草本のミゾソバが優占し植被率 50%で、その他にはフジやセリ、ヨシなどがやや多くみとめられる。

イ) エノキ群落（調査地点番号：18）

本群落は比較的湿った立地に成立する落葉広葉樹の高木林である。階層構造は 4 層に分かれており、高木層にはエノキが優占するほかエンコウカエデなどもみられる。植被率は 95%と樹冠が比較的鬱閉している。

亜高木層にはヤマグワやカスミザクラが優占するが、植被率は 20%と少ない。低木層にはアズマネザサが密生しており（植被率 90%）、このため草本層にはほとんど植物は生えていない。

ウ) クヌギ・コナラ群落（調査地点番号：9）

本群落は調査地域において最も一般的にみられる二次林である。階層構造は 4 層に分かれており、高木層にはクヌギやコナラが優占する。植被率は 95%と樹冠が比較的鬱閉している。

亜高木層の植被率は 20%で、カスミザクラやネムノキがやや多くみられる。低木層にアズマネザサが密生しているところでは、植被率が 100%近くになっており、このため草本層にはほとんど植物は生えていない。一方、林床にアズマネザサがあまり生えていないところでは、カマツカやヒサカキ、ヤマコウバシといった低木やヤマカシュウ、タチドコロといった草本類など比較的多くの種が生育している。

エ) コナラ・アカマツ群落（調査地点番号：22）

本群落はコナラ等の落葉広葉樹と常緑針葉樹のアカマツの混交林である。階層構造は 4 層に分かれており、高木層にはコナラやアカマツ、カスミザクラが優占する。植被率は 95%と樹冠が比較的鬱閉している。

亜高木層の植被率は 30%で、マルバアオダモやカマツカ、ネジキ等がやや多くみられる。低木層には常緑広葉樹のヒサカキやソヨゴがやや多くみられ、植被率 50%、草本層は植被率 20%とあまり量は多くないものの、アズマネザサ、タチドコロ、ヤマウルシなど 20 種以上の種がみとめられた。

オ) アカマツ群落（調査地点番号：23）

本群落は常緑針葉樹のアカマツが優占する二次林である。階層構造は 4 層に分かれており、高木層にはアカマツが優占し、植被率は 70%と樹冠はやや空いている。

亜高木層の植被率は 90%で、マルバアオダモやコナラ、カスミザクラが多くみられる。低木層は植被率 20%で、カマツカ、ナツハゼ、ヒサカキ、ミヤマガマズミなどがやや多くみられる。草

本層には 30 種以上の種がみとめられ、コウヤボウキがやや多くみられるほか、ヤマカシウ、タチドコロ、オオバタンキリマメなどが若干多くみとめられた。

か) シラカシ群落 (調査地点番号: 19)

本群落は常緑広葉樹のシラカシが優占する高木林である。階層構造は 3 層に分かれており、高木層にはシラカシが優占し、植被率は 100%と樹冠は鬱閉している。

高木層でシラカシの葉が密に茂っているため、下層には日照が少なく、このため、低木層も草本層も植被率が 10%以下であり、シラカシの実生木やシュロ、ナガバジャノヒゲといった暗い林内でも生育できる種がやや多くみられる程度である。

き) マグワ・ヤマグワ群落 (調査地点番号: 37)

本群落は落葉広葉樹のマグワ (別名トウグワ) やヤマグワが優占する低木林であり、桑畑 (マグワ) の放棄地も含まれている。階層構造は 2 層に分かれており、低木層にはマグワやヤマグワが優占し、植被率は 90%と樹冠は比較的鬱閉している。

草本層も植被率が 90%と高く、ケチヂミザサが多く優占し、その他にはクズやフジが若干多くみられる。

く) スルデ群落 (調査地点番号: 42)

本群落は伐採跡地などに先駆的に成立する低木林である。階層構造は 2 層に分かれており、低木層にはスルデが優占し、その他、セイタカアワダチソウやアズマネザサなどがみられ、植被率は 40%と低い。

草本層の植被率は 80%で、アズマネザサ、チガヤ、ベニバナボロギクなどがやや多くみられるほか、比較的多くの種がみとめられ、20 種以上の種が生育している。

け) マダケ林 (調査地点番号: 40)

本群落はマダケが優占する竹林である。階層構造は 2 層に分かれており、高木層にはマダケが優占し、植被率は 100%と樹冠は鬱閉している。

高木層にマダケが密生していたため、亜高木層や低木層はほとんど発達せず、草本層も植被率 1%程度で、フジやケチヂミザサなどが若干多くみられる程度である。

こ) ハリエンジュ群落、シンジュ群落 (調査地点番号: 13、1)

本群落は外来種であるハリエンジュやシンジュが優占する落葉広葉樹の高木林である。階層構造は 3~4 層に分かれており、高木層にはハリエンジュやシンジュが優占し、植被率は 80~90%と樹冠は比較的鬱閉している。

低木層にアズマネザサが密生しているため草本層にはあまり植物は生えておらず、カナムグラやフジ、クズなどのつる植物が若干多くみられる程度である。

か) スギ・ヒノキ植林 (調査地点番号: 41)

本群落はスギやヒノキの植林地であり、スギやヒノキの高木が優占する常緑針葉樹林である。階層構造は 4 層に分かれており、高木層にはスギやヒノキが優占し、植被率は 100%に近く、樹冠は

鬱閉していることが多い。

低木層は30%で、アズマネザサやムラサキシキブがやや多くみられる。草本層は50%で、タガネソウ、アズマネザサ、タチドコロなどがやや多くみられ、出現種数も40種と多くなっている。

イ 草本群落

草本群落は全部で25単位が確認された。確認された主な草本群落の概況について以下に述べる。

ア) ヨシ群落、ツルヨシ群落（調査地点番号：5、2）

本群落は河道内や谷戸の湿地に成立する湿生草本群落である。草本層のみからなり、植被率100%で、ヨシやツルヨシが密生しており、その他の種はイシミカワやタチヤナギなどが若干みられる程度である。

イ) オギ群落（調査地点番号：36）

本群落は谷戸などの湿地に成立する湿生草本群落である。階層構造は2層に分かれており、草本第1層は植被率90%で、オギが密生しており、他の植物はほとんどみられない。

草本第1層にオギが密生しているため、草本第2層は植被率10%と少なく、ヒメシダ、コアカソ、カナムグラなどが若干多くみられる程度である。

ウ) ミゾソバ群落（調査地点番号：39）

本群落は谷戸などの湿地に成立する湿生草本群落である。草本層のみからなり、植被率100%で、ミゾソバが密生しており、その他、イボクサやイヌタデなどが若干多くみられる。

エ) アズマネザサ群落（調査地点番号：16）

本群落は笹類の一種であるアズマネザサが優占する高茎草地である。階層構造は2層に分かれており、草本第1層は植被率100%で、アズマネザサが密生しており、他にはオニドコロやアケビといった植物が若干みられる程度である。

草本第1層にアズマネザサが密生しているため、草本第2層は植被率5%と少なく、アズマネザサ、ナガイモ、アケビなどが若干みられる程度である。

オ) ススキ群落（調査地点番号：8）

本群落はイネ科の多年草であるススキが優占する高茎草地である。階層構造は2層に分かれており、草本第1層は植被率80%で、ススキが多くみられるほか、アキノノゲシやトウグワなどが若干多くみとめられる。

草本第1層にススキが密生しているため、草本第2層は植被率30%と少なく、ドクダミやヨモギ、ヒナタイノコズチ、ガガイモ等が若干多くみられる程度である。

カ) クズ群落（調査地点番号：15）

本群落はつる性の多年草であるクズが優占する低茎～高茎草地である。草本層のみからなり、植被率100%で、クズが密生しているため、他の植物は少なく、カナムグラやアズマネザサがやや多くみられる程度である。

キ) チゴザサ群落、クサネム群落（調査地点番号：38、25）

本群落は水田跡地などの湿地に成立する湿生草本群落である。草本層のみからなり、植被率100%で、チゴザサやクサネムが多くみられるほか、ミゾソバやセリ、イ、トキワハゼ等が若干多くみられる。

ク) メヒシバーエノコログサ群落（調査地点番号：17）

本群落は耕作跡地などに成立する1年生草本群落である。草本層のみからなり、植被率100%で、メヒシバが多くみられるほか、エノコログサ、クズ、ハキダメギク等がやや多くみられ、全体での出現種数も20種程度と比較的多い。

ケ) セイタカアワダチソウ群落（調査地点番号：3）

本群落は北米原産の外来種であるセイタカアワダチソウが優占する高茎草地である。草本層のみからなり、植被率100%で、セイタカアワダチソウが多くみられるほか、ヨモギ、ツルマメ、メマツヨイグサ等がやや多くみられる。

表 6-11-8(1) 植物群落調査地点の概況写真



No. 1 シンジュ群落



No. 2 ツルヨシ群落



No. 3 セイタカアワダチソウ群落



No. 4 オオブタクサ群落



No. 5 ヨシ群落



No. 6 コマツナギ群落

表 6-11-8(2) 植物群落調査地点の概況写真



No. 7 コヌカグサ群落



No. 8 ススキ群落



No. 9 クヌギーコナラ群落



No. 10 カナムグラ群落



No. 11 アカマツ群落 (若齢林)



No. 12 クヌギーコナラ群落 (若齢林)

表 6-11-8(3) 植物群落調査地点の概況写真



No. 13 ハリエンジュ群落



No. 14 メマツヨイグサ群落



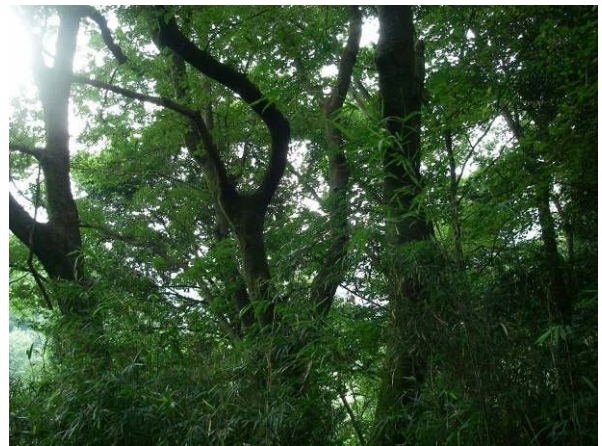
No. 15 クズ群落



No. 16 アズマネザサ群落

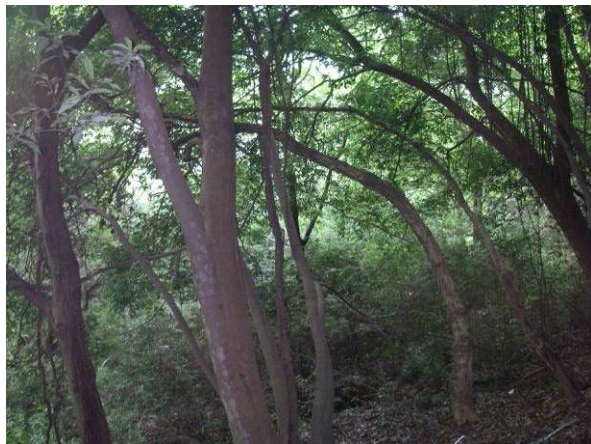


No. 17 メヒシパーエノコグサ群落



No. 18 エノキ群落

表 6-11-8(4) 植物群落調査地点の概況写真



No. 19 シラカシ群落



No. 20 ドクダミ群落



No. 21 スギ・ヒノキ植林 (若齢林)



No. 22 コナラ・アカマツ群落



No. 23 アカマツ群落



No. 24 ヤブマメ群落

表 6-11-8(5) 植物群落調査地点の概況写真



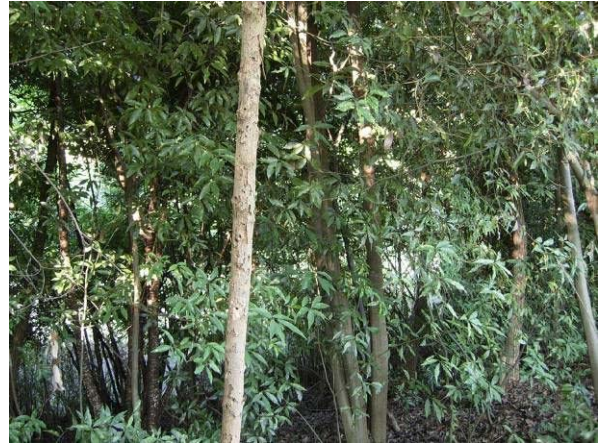
No. 25 クサネム群落



No. 26 メドハギ群落



No. 27 オニグルミ群落



No. 28 コナラ・シラカシ群落



No. 29 チガヤ群落



No. 30 イタチハギ群落

表 6-11-8(6) 植物群落調査地点の概況写真



No. 31 畑地雑草群落



No. 32 コセングサ群落



No. 33 ヒメカシヨモギ一材アチノギク群落



No. 34 ガマ群落



No. 35 タチヤナギ群落



No. 36 オギ群落